

最優秀賞（一般部門） 椋本優加

私の父の仕事

私の父は臨床工学技士をしています。臨床工学技士は認知度が低く、友達に「お父さんなんの仕事してるの。」と聞かれて答えると不思議そうな顔をされることがほとんどです。でも私は人知れず患者さんを救うために闘っている父をカッコいいと思っています。

父は日頃、人工透析装置や、呼吸器など様々な医療機器を介して医師のサポートをしたり、睡眠時間も不規則で仕事場に泊まって次の日の朝に帰ってくることもあります。他にも学会や試験に行ったりと忙しそうにしています。

最近は新型コロナウイルスで入院する患者さんが大幅に増えて、泊まりの仕事や学会があった時よりも忙しそうにしています。毎晩疲れて帰ってきてても必ず毎日仕事に行っています。私達家族も、新型コロナウイルスにかからないか不安ですが、父も不安だと思っています。なぜそこまで仕事を頑張る

のか気になったので聞いてみると、「病院で困っている人をま  
たせるわけにはいかないから」と答えてくれました。私は責  
任を持って毎日患者さんと向き合う父はカッコいいと思え  
ました。

臨床工学技士は毎日がとても忙しく、患者さんの目にと  
まらない仕事だけど他の医療従事者の人達や患者さんに対  
して役に立ってる仕事だと父は教えてくれました。

私は特に、「こうなりたい」というはっきりした将来像は  
今まで無かったのですが父の仕事の話を聞いて、臨床工学技  
士という仕事は患者さんや他の医療従事者の方の役に立て  
るということに気がきました。

もし将来臨床工学技士に  
なれたとしたら、父のよう  
な責任感を持つことを忘れ  
ずに多くの人の役に立てる  
人間になりたいと思います。

